令和８年３月１２日
横浜市立吉原小学校

令和７年度全国学力・学習状況調査結果について

全国の６年生児童を対象に、今年度の４月に実施した全国学力・学習状況調査の結果をもとに、本校の状況についてお知らせいたします。

＜全国学力・学習状況調査の目的＞

（１） 全国の小中学校児童生徒の学習状況について、分析的・総合的に把握し、教育施策に活用するとともに、児童生徒の学力向上などに生かす。

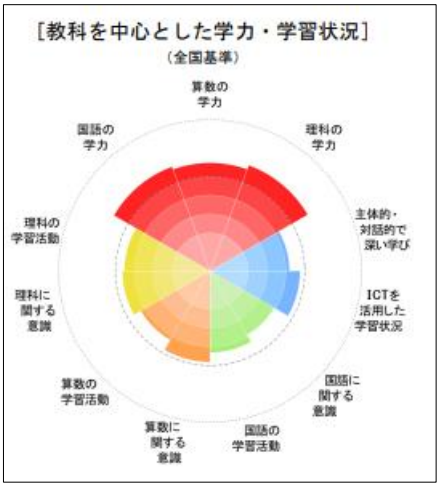
（２） 各学校においては、自校の一人ひとりの学習状況をとらえ、教科指導や教育評価の改善及び、個に応じた指導の充実などに生かす。

（３） 児童生徒においては、学力向上のために自らの学習状況をとらえ、学習の改善などに生かす。

＜本校の教科別学習状況調査結果＞平均正答率（%）

	国語	算数	理科
吉原小	**７３**	**６３**	**６５**
神奈川県	６６	５９	５７
全国	６６．８	５８	５７．１

［児童生徒］教科を中心とした学力・学習状況



＜調査結果をふまえて＞

本年度の全国学力・学習状況調査において、本校の児童は国語・算数・理科のいずれの教科でも、**全国平均を上回る成果**を収めました。日頃の子どもたちの頑張り、そしてご家庭の温かい励ましに深く感謝申し上げます。

国語では、平均正答率が全国と比べて約 7%上回る結果になりました。「思考力・判断力・表現力」の「話すこと」「読むこと」の領域では、特に平均正答率が高い結果でした。国語に関する質問では、「国語の学習は、将来役に立つ」と感じている子が多かったです。

算数の平均正答率は全国と比べて５％上回りました。観点別の平均正答率が高かったのは、「数と計算」「測定」でした。算数についての質問では、「算数の勉強が得意」「算数の学習は将来役に立つ」と答える子が多くいました。また、あきらめずにいろいろな方法で考えたり、工夫して計算したりしようとしている子が多くいることが分かりました。

今年度から調査が始まった理科では、平均正答率が全国と比べて約 8%上回る結果になりました。特に「B 区分」の「生命を柱とする領域」では、正答率が 10%以上も高い結果となりました。理科に関する質問では、「理科の勉強が得意」「授業の内容がよく分かる」という質問に対して肯定的な回答が多かったです。また、「観察や実験の結果から、どのようなことが分かったのか考えている」子の割合も全国平均を上回っていました。これらのことから、観察や実験などの体験を伴った学習から考察できるよう、授業を組み立ててきた成果だと考えられます。

児童質問では、「自分には、よいところがあると思います」「人の役に立ちたい」「人が困っているときは進んで助ける」と答えている児童が多くいました。これらのことからは、吉原小の子どもは、温かい人間関係を大切にし、自他のよさを認め合っている姿が表れています。これからも、一人ひとりのよさを認めながら、温かく寄り添う指導を進めてまいります。また、子どもたちがさらに主体的に学習へ取り組めるよう、授業改善にも努めてきたことがこれからも子どもたちの中で生かされるとよいと思っております。引き続き、学校教育へのご理解とご協力をよろしくお願いいたします。